

平成28年度 第1回(通算53回)ソフィア発見講座(報告)



実施日 平成28年10月12日(水) 18:30 ~
会場 磐周教育研究所 大会議室

テーマ 「俳句を楽しみましょう」

講師 村松 達也 先生(周南中学校)
野村 久 先生(袋井北小学校)

- 1 主催者挨拶並びに講師紹介
副委員長 加藤 邦夫 (袋井西小校長)
この『ソフィア発見講座』は、私たちの感性を磨きましょうという会です。夏の「教育

講演会」は、外部から講師を招いてのものです。この会は、私たちの身近にいる方を講師として迎え、感性を磨こうというものです。

村松達也先生は、俳句歴20年。小学生対象の教室や成人対象の俳句会の講師をされています。野村久先生は、村松先生と御一緒に様々な俳句教室を主催されています。最近、互助新聞の8月号にも俳句が掲載されました。

お二人に俳句の世界を話していただくとともに、参加していただいた皆さんと俳句を詠んで俳句の世界を味わってみましょう。

2 講話(俳句創作活動)

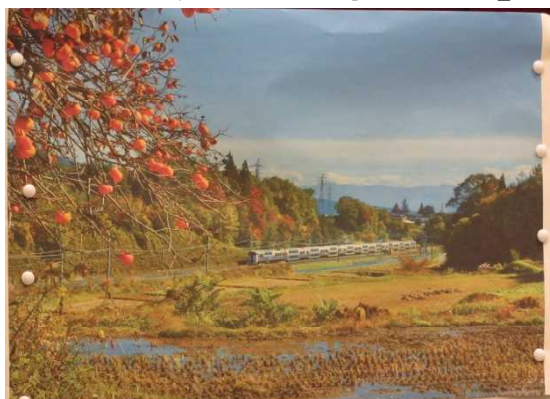
俳句は、作りっぱなしでは面白くない。お互いによい作品を選びましょう。

俳句は季節をほめるもの。俳句を作る活動は、古人・知人・過去や未来の自分・身の回りの動植物、土地への・地球への・宇宙へのメッセージである。

どのようにつくればよいか。季語とは、文化・風土の結晶、宇宙の営みそのものである。季語のいいところ・おもしろいところをズバリとほめる。季語とほかの物を取り合わせてほめる。

上手に作るには、すっきり作る、筋道立てて目に見えるように表現する。理屈や説明を捨てるとうい。俳句は、韻文。

それでは、2枚の写真や『秋の季語』(季語一覧参照)で俳句を作ってみましょう。



*参加者65名は約30分かけ、創作活動をしました。その後、代表作1首を画用紙に記入し、掲示板にはり出しました。そして、参加者全員で「選句」しました。



<参加者から選ばれた作品の一部>

- 待ち合わせ 紅葉踏みしめ 深呼吸
- 紅葉を まねしてはいた 赤い靴
- 稲刈りや 祖母の背中を 思い出し
- 「おかわり」のこえが重なる 栗ご飯
- しぶ柿や つるす母の手 里の空
- とろろ汁 よき日を偲ぶ 義父の技

<講師が選んだ作品の一部>

- ふるさとや 刈田に映る 青い空
- 早朝の 静けさの中 もみじかな
- 天高し 駅弁買って 一人旅
- 五時の鐘 家に帰って 栗ご飯
- もう少し 夕日にもみじの 手が届く

<講評>

選ばれた作品は・・・のびのびとした言葉遣い。余分なことは一切入っていない。

- ・・・間が良い。
- ・・・言葉がつまっていないでのびのびと気持ちの良い句。



- ・・・表記の選択（漢字・ひらがな）で句のやわらかさや硬さが表れてくる。

俳句は、ちょいちょい作るとよい。野球を毎日練習するとよいように俳句も毎日続けるとよい。作りっぱなしではなく、自分の句を投句するとよい。特に新聞。また、俳句雑誌に投句する。結社誌への投句。句会に出るのもよい。

3 お礼・終わりの言葉（委員長 小川 茂明 豊田南中校長）

「今日は、感性を磨けるとよいな」と思って参加しましたが、皆さんと創作活動や選句をする中で、笑顔にもなれました。私は、校長という立場で終業式や始業式で話をしますが、その学期への思いを俳句にして生徒たちに伝えています。俳句は何かに対してメッセージを送るとい言葉がありました。これからも、生徒たちの顔を思い浮かべて、何かに対してメッセージを送るんだという気持ちで俳句を作りたいと思います。

数年前、旅行先で投句をしたところ、2～3か月したら菓子折りと福井県知事賞を受賞の知らせが届いたことがありました。それからは行く先々で投句をしています。

俳句は肩ひじ張らない韻文であるので説明や理屈はいりません。読む人が目に見えてくるように肌で感じるように。俳句づくりをしながら日本語の神髄を味わうことができます。

村松先生・野村先生、そして、御参加いただいた「社員」の皆様、楽しい時間をありがとうございました。次回11月9日（水）の「発見講座」にも是非御参加ください。



